

事業報告書

事業名	福祉三専門職のソーシャルケアの有効性に関する研究
事業の実施状況	<p>本研究は、昨年度の研究を継続するもので、今年度は、質的な分析等でもって、さらにその有用性を明らかにすることを狙いとしてきた。</p> <p>そこで、本研究では、以下の4つの調査研究を行った。</p> <p>① 重層的包括支援体制の確立に向けて現在モデル的事業を実施している市町村において、相談支援包括化推進員である社会福祉士・精神保健福祉士の重層的な相談支援活動の有効性について、量的調査を行った。</p> <p>②社会福祉士・精神保健福祉士が地域移行支援において、ニーズの掘り起こしに係るうえでのコンピテンシーについて明らかにすることで、今年度は、精神病院入院患者の地域移行支援に携わるソーシャルワーカーに着目し、地域相談支援の実施体制づくり、地域移行を促進するしかけに係るコンピテンシーに焦点を当て、効果的な支援や促進要因につながるコンピテンシーを具体的に示すことを目的とした。</p> <p>③医療ソーシャルワーカーの重層的支援体制の実施に向けて有効であるかを明らかにするために、量的調査を実施した。</p> <p>④介護福祉士の有効性について、障害者総合支援法に基づいた障害福祉サービスの利用経験を有する高齢障害者が介護保険法に基づいた介護福祉サービスへの移行、もしくは両サービスの併給利用を行った経験のある者へ支援業務を行った経験を有する介護福祉士等への面接調査をもとに、高齢障害者への支援体制における構造的・実践的課題を明らかにした。</p>

<p>事業の成果</p>	<p>以上のそれぞれの4つの調査の主たる結果は、以下の通りであった。</p> <p>① ソーシャルワーカーの有用性を示すと思われた相談支援業務の項目で、社会福祉士の資格を保有していることが、重層的支援体制整備事業における業務の実施度および優先度を促進するという仮説を検証することができなかった。</p> <p>② 一般相談支援事業所や基幹相談支援センターにおいて地域移行支援に携わる相談支援専門員のコンピテンシーは自己概念として、信念、態度、姿勢等の17項目、動因として、クライアントや目の前に相手のために動きたい、思いを受け止め、意向をつかみたい等の27項目、技能として、個人と環境に係るさまざまな強みや活用可能性を捉え、活用する、相手に配慮しながら効果的にコミュニケーションを図る等の22項目があることが明らかになった。</p> <p>③ 医療ソーシャルワーカーは重層的支援体制や地域支援体制の重要性を認識しながらも、実施できていない可能性が示され、医療ソーシャルワーカーの地域での活動は、未だその途に就いた段階であることが分かった。一方、医療機関がソーシャルワーカーの行う業務に協力的か否かによって、実施度に有意な差がみられ、職場環境の改善が重要であることが明らかになった。</p> <p>④ 65才以上となった高齢障害者の支援の連続性に係る介護福祉士の課題は、障害福祉サービスの知識不足、高齢障害者の支援についての知識不足、介護保険サービスと障害福祉サービスを担当する職員同士の連携の問題が挙げられた。</p> <p>以上より、地域共生社会に対応するソーシャルワーカーやケアワーカーは、さらなる研鑽を積むことが必要であることが分かった。</p>
--------------	--